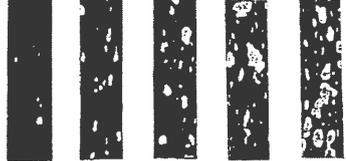


事項	小麦のうどんこ病の時期別の発生程度からみた減収尺度																
ねらい	小麦の主要品種「ネバリゴシ」で最も発生が多い病害であるうどんこ病を対象に、発生時期・程度と収量との関係を検討した。その結果、開花期頃及び開花期から10～14日後頃の止葉を含む上位2葉での発生程度によって、減収尺度が明らかとなったので参考に供する。																
指導参考内容	<p>1 止葉を含む上位2葉での時期別のうどんこ病の発生程度と減収尺度</p> <table border="1" style="display: inline-table; margin-right: 20px;"> <thead> <tr> <th colspan="2">病斑面積率 (%)</th> <th rowspan="2">減収量</th> </tr> <tr> <th>開花期頃</th> <th>開花期から10～14日後頃</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0.2</td> <td>1.0</td> <td>3%</td> </tr> <tr> <td>0.7</td> <td>2.6</td> <td>5%</td> </tr> <tr> <td>1.8</td> <td>6.7</td> <td>10%</td> </tr> </tbody> </table> <p>病斑面積率基準図 (県予察調査基準)</p>  <p style="text-align: center;">1% 5% 10% 20% 30%</p> <p>(注) 調査手順</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 圃場当たり3か所を任意に選ぶ。</li> <li>② 1か所当たり25茎の止葉を含む上位2葉について、1葉毎に病斑面積率(1、2、3、5、7、10、15、20、30、40、50、60、70、80、90、100%)を調査し、50葉平均の病斑面積率を算出する。</li> <li>③ 3か所平均の病斑面積率から減収量を推定する。</li> </ol> <p>2 減収量が10%程度となるような発生では、整粒不足や形質不良が原因で検査等級が低下することがある。</p> <p>3 防除効果が高い薬剤を止葉直下葉での発生直後に1回散布すると、その後の発生を安定して低く抑さえ(平成19年度指導参考資料)、減収量を3%程度に抑えることができる。</p>			病斑面積率 (%)		減収量	開花期頃	開花期から10～14日後頃	0.2	1.0	3%	0.7	2.6	5%	1.8	6.7	10%
病斑面積率 (%)		減収量															
開花期頃	開花期から10～14日後頃																
0.2	1.0	3%															
0.7	2.6	5%															
1.8	6.7	10%															
期待される効果	小麦のうどんこ病による減収を軽減し、安定生産に寄与する。																
利用上の注意事項	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 本資料は平成20年3月1日現在の農薬登録に基づいて作成した。</li> <li>2 農薬を使用する場合は、必ず最新の「農薬登録情報」(<a href="http://www.maff.go.jp/nouyaku/">http://www.maff.go.jp/nouyaku/</a>)を確認すること。</li> <li>3 10a当たりの農薬費には、防除効果が高い薬剤の中でも210円～1,230円まで差があるので、平年の収量を考慮して農薬を選択する。</li> <li>4 開花期頃以降の遅い発生に対しては、赤かび病の防除を主体とし、うどんこ病にも登録のある薬剤を選択して効率的な防除を図る。</li> </ol>																
担当部署(担当者名)	青森県農林総合研究センター 病害虫防除室 (岩間俊太)	対象地域	県下全域														
発表文献等	平成17～19年度 青森県農林総合研究センター試験成績概要集																

【根拠となった主要な試験結果】

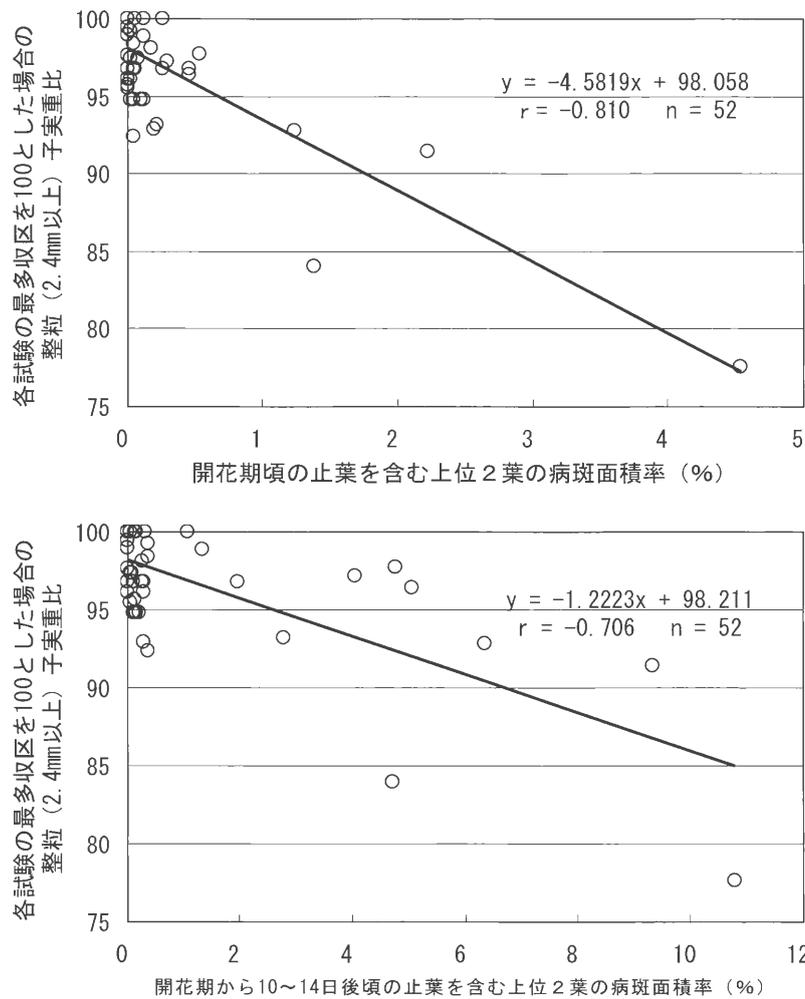


図1 小麦のうどんこ病の発生程度と収量との関係 (平成17~19年 青森農林総研)

(注) 1 試験場所: 平成17年 青森農林総研境松北部圃場  
平成18年 同境松北部・東部圃場  
平成19年 同田中圃場

2 品種: 各年ともにネバリゴシ (図1、表1~2共通)

表1 小麦のうどんこ病の発生と収量・品質 (平成16年9月28日播種) (平成17年 青森農林総研)

区名	止葉を含む上位2葉の病斑面積率 (%)					防除価	粒厚2.4mm以上でみた	
	5/27	6/2	6/9 (開花期)	6/15 (開花期+13日)	6/22 (開花期+13日)		子実重の徹底 防除区対比 (%)	検査等級 (サンプル数)
徹底防除	0	0.01	0	0.01	0	100	100	1中(2)、1下(2)
トリフミン水和剤	0	0	0.09	0.05	0.24	97.7	97	1下(4)
対照イオウフロアブル	0.01	0.02	0.27	1.30	2.83	72.3	91	1下(1)、2上(3)
無散布	0.02	0.70	3.20	4.96	10.22	—	90	1下(1)、2上(3)

(注) 試験場所: 青森農林総研境松北部圃場 収穫日: 7月16日 検査等級の低下原因: 整粒不足  
散布日: 徹底防除区では平成17年5月11日、22日、6月4日 (生育初期から防除効果の高い薬剤を散布)、その他は5月26日 (止葉直下葉での発生直後)

表2 小麦のうどんこ病の発生と収量・品質 (平成17年9月15日播種) (平成18年 青森農林総研)

区名	止葉を含む上位2葉の病斑面積率 (%)					防除価	粒厚2.4mm以上でみた	
	5/17	5/24	5/31 (開花期-1日)	6/8 (開花期+14日)	6/14 (開花期+14日)		子実重の徹底 防除区対比 (%)	検査等級 (サンプル数)
徹底防除	0	0	0	0	0	100	100	1 (1:ABC区混和)
トリフミン水和剤	0.02	0.02	0.03	0.13	0.33	96.1	99	1 (1:ABC区混和)
無散布	0.05	0.36	1.95	4.87	8.47	—	92	2 (1:ABC区混和)

(注) 試験場所: 青森農林総研境松東部圃場 収穫日: 7月11日 検査等級の低下原因: 形質不良  
散布日: 徹底防除区では平成18年4月11日~6月9日までの間に計7回 (生育初期から防除効果の高い薬剤を散布)、トリフミン水和剤区では5月17日 (止葉直下葉での発生直後)